

河口堰ゲート閉鎖25年・生物多様性COP10から10年！開門調査の実現を！
シンポジウム

よみがえれ長良川2020

変わりゆく長良川の魚と生物多様性

講師 向井 貴彦（岐阜大学准教授）

長良川の上流と下流・世代を繋ぐパネラー

今井 洸貴（大学生・桑名市在住）

山下 凌（大学生・郡上市出身）

堀 敏弘（釣り人・岐阜市在住）

コーディネーター

粕谷 志郎（長良川市民学習会代表）

11/15（日） PM2:00～5:00
（開場1:30）

ぎふメディアコスモスみんなのホール 岐阜市司町 40-5
☎058-265-4101

入場無料（資料代500円）

コロナ感染対策で定員制限があります。参加希望者は事前に
090-1284-1298（武藤）または mutohitoshi@yahoo.co.jp まで
ご連絡いただくと幸いです。

主催 よみがえれ長良川実行委員会



河口堰ゲート閉鎖 25 年 開門調査の実現を！

「宝の川やった長良川は、河口堰ができて流れが止まり、川底には砂とゴミがたまり、魚の棲まんおぜえ川になってしまった。どうか、堰を開けて長良川を助けてくださいせえ」親子三代にわたり長良川下流でサツキマス漁を営んでこられた大橋亮一さんが、昨年亡くなるまで訴え続けられた言葉です。

長良川の河口をふさぐ河口堰のゲートが閉鎖されて 25 年。海とのつながりを断たれ、長良川は大きく変わってしまいました。ヤマトシジミの姿は消え、日本有数の漁場は失われました。堰上流側は水位を上げたままの人工湖となり、様々な生きものが棲む豊かなヨシ原は 90% 消滅し、伊勢湾の環境にも大きな影響を与えています。

河口堰はアユ、サツキマス、ウナギ、モクズガニ・・・など海と川を行き来する多くの生きものの障害となっています。長良川の象徴でもあるアユの仔魚は海に下れず、漁協が中流の岐阜市で捕えた落ちアユの卵に人工授精し、1 億を超える受精卵を河口へ運搬、人工水路で孵化放流を行っています。人の手を借りてしか生きられない状況のもと、岐阜市は長良川の天然遡上アユをレッドリストで準絶滅危惧種に選定しました。

アユの漁獲量が河口堰建設以降激減する一方で 2015 年、「清流長良川の鮎」が国連食糧農業機関により世界農業遺産に認定されました。岐阜県は、これを契機にアユのブランド化、漁獲量日本一をめざし大量放流に拍車をかけています。アユだけでなく魚類全体の生態系の攪乱に危惧の声が広がっています。

長良川は環境・生態系の回復のために今一番必要なことは、汽水域を復活し流れを取り戻すことです。2010 年名古屋市で開催された生物多様性条約締約国会議 COP10 では、「自然と共生する世界」の実現をめざす愛知目標が採択されました。節水意識の普及により水需要は減少しており、今後の人口減少でさらにこの傾向は明らかになります。2011 年、最大の利水者である愛知県は、長良川河口堰を検証する委員会を設置し、河口堰の開門調査を提案しました。この提案は開門による「塩害の危惧」にも十分配慮したもので、国・事業者・関係自治体の協議が求められています。

愛知目標 10 年の節目となる今年こそ、河口堰開門に向けた確実な第一歩の年としましょう。

一昨年、熊本県球磨川の荒瀬ダムで、日本初の大規模ダム撤去が地元住民と時間をかけ協議をしながら完了しました。その結果、川は流れを取り戻し、河口部の川も海も目に見えて環境回復しました。

昨年、韓国釜山市のナクトンガン（洛東江）河口堰の試験開門が始まりました。1987 年運用開始以来、堰の開放をめざす市民は釜山市を後押しし新政権とも連携し、2025 年の河口堰全面開放をめざして前進しています。また「4 大河川事業」で建設されたダムのゲート開放や撤去も市民参加で進んでいます。

デルタの国オランダでも、河口堰を開放して汽水域を回復するたくさんの実績を積み重ねています。ヨーロッパではすでに 4 千のダムが撤去され、川の流れを取り戻す取り組みが進んでいると言われています。河口堰開門は、世界の流れです。

シンポジウム登壇者のプロフィール

向井 貴彦（岐阜大学准教授）

1971 年生まれ。滋賀県出身。専門は魚類学・保全生態学。野外調査、DNA 解析、博物館標本の活用など、さまざまな技術を駆使して汽水魚や淡水魚などの生態や進化を研究するとともに、絶滅危惧種の保全や外来種問題についての研究を行っている。日本魚類学会自然保護委員会委員。愛知県長良川河口堰最適運用検討委員としても活躍している。



今井 洸貴（名城大学 4 年生）

1998 年生まれ。桑名市長島町在住。環境保全活動に積極的に取り組む。専門分野は淡水魚。釣りが趣味で、長良川河口堰付近でサツキマス等の魚をよく釣っている。ボランティアで「緊急 SOS! 池の水ぜんぶ抜く大作戦（テレビ東京）」、「なごや生物多様性センターの活動」等に参加している。



山下 凌（東京海洋大学 3 年生）

1999 年生れ。郡上市大和町出身。日本淡水魚、特にナマズの仲間が好き。大学で魚に関して幅広く勉強中。暇があれば日本各地へ行き川で魚を採ったり海で潜ったり。

堀 敏弘（釣り人）

1952 年生れ。岐阜市出身。子どもの頃から釣りに親しむ。「長良川河口堰建設に反対する会・岐阜」で建設反対運動に取り組む。名古屋市立保育園の男性保育士の草分けを担う経歴をもち、長良川と釣りが好きすぎて、23 年前に郡上市・吉田川のほとりの古家を手に入れ、毎週岐阜と郡上を往復している。現在、大好きな釣りを続けながら川を守る運動に参加している。



粕谷 志郎（長良川市民学習会代表）

1949 年生れ。岐阜県不破郡垂井町出身。岐阜大学名誉教授・医師。研究者として長良川下流域生物相調査団に参加し河口堰が長良川に及ぼした環境悪化の実態を明らかにした。河口堰建設に反対するとともに、現在、河口堰の開門をもとめる 29 団体からなる「よみがえれ長良川実行委員会」の共同代表として市民運動を牽引している。



*会場内ではマスクの着用など感染対策にご協力ください。

会場へのアクセス

会場には有料の立体駐車場があります。会場利用者は二時間無料です。

バスでお越しの場合

- ◆「メディアアコスモス前」バス停下車すぐ
- ◆「市民会館・裁判所前」バス停下車すぐ
- ◆「メディアアコスモス・鶯谷高校口」バス停より徒歩三分